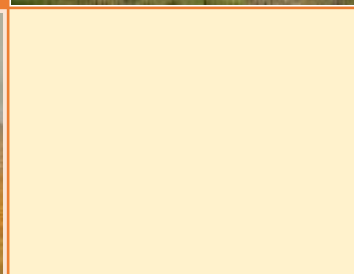
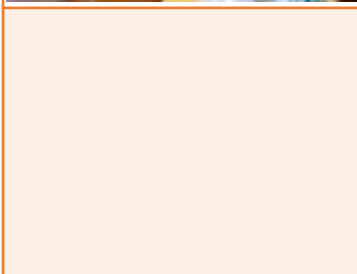
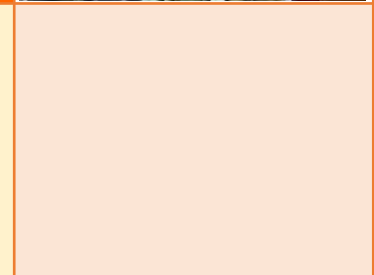


# 自治会活動 事例集



大津市

# 目次

## 単位自治会活動編

---

- 事例① 日吉台一丁目南自治会（日吉台学区）
- 事例② 高穂町、きさらぎ町自治会（唐崎学区）
- 事例③ 南別所町自治会（長等学区）
- 事例④ 皇子が丘三丁目自治会（長等学区）
- 事例⑤ 国分一丁目四区自治会（晴嵐学区）
- 事例⑥ ルネ大津自治会（平野学区）
- 事例⑦ 晴嵐台自治会（南郷学区）
- 事例⑧ 本宮東自治会（平野学区）
- 事例⑨ 西河原自治会（瀬田南学区）
- 事例⑩ 若葉台自治会（富士見学区）

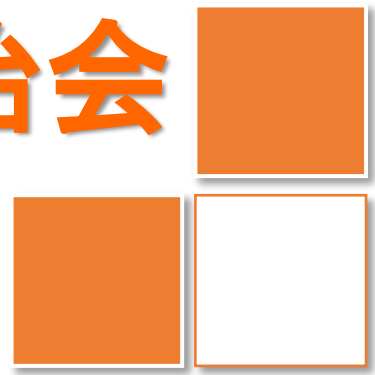
## 学区自治連合会活動編

---

- 事例⑪ 真野学区自治連合会
- 事例⑫ 東部ブロック（瀬田、瀬田南、瀬田北、瀬田東、青山、上田上学区自治連合会）
- 事例⑬ 日吉台学区自治連合会
- 事例⑭ 平野学区自治連合会



# 単位自治会 活動編



# 地域まちづくり事業

日吉台一丁目南自治会(日吉台学区)

**地域の小さな困りごとをそのままにせず、きめ細やかに対応!!**

**地域資源を十分に活用し、工夫を凝らしたやり方で困りごとを解決**

## 児童公園遊具改修 (ベンチ椅子作製)

私たちの自治会内にある公園に、これまで、ベンチがまったくありませんでした。そこで、社会福祉協議会にあった廃棄予定の椅子を解体し、少しの材料費でリフォームベンチを3脚作製しました。

今後は、公園が子どもたちやその家族のたまり場になると期待しています。



## 町内道路側溝のグレーチング異音防止

自治会内の各地域の住民の方々より、車両通行時グレーチングから大きな異音が発生しているとの依頼があり、調査したところ、7ヶ所で異音が発生していることが判明しました。

これは自治会で直せる!!と判断し、自転車屋店で、不要のチューブをもらい、修繕しました。その後、何度か点検、修繕を繰り返し、異音についてはほぼ解消できました。

## 自治協働課からのコメント

地域の中の困りごとを、自治会の困りごととして、役員の方をはじめ、自治会員みなさまで解決にむけた取り組みをされています。

また、地域の団体や事業者にも協力してもらい、廃棄予定の資源を上手に活用するなど、お金をかけずに、問題を解決していく視点がすばらしいと感じました。このことは、もともと地域内の各種団体や事業者との連携を大切に、また、普段気付かないような困りごとへも丁寧に耳を傾け、お互い様で協力していこうという当自治会の思いの現れであると思います。

# 自助・共助を基本とした自主防災活動

## 高穂町、きさらぎ町自治会(唐崎学区)

**自分の命は自分で守る!!**  
自助、共助を合言葉に、訓練や講習会を実施し、いざというときに対応できる地域へ

### 合同防災訓練

防災訓練というと、行政が中心に進めていくものが多い中、高穂町、旧高穂東部、きさらぎ町の自治会が合同で、自分たちで企画した防災訓練を実施しています。

災害時に大事となる初期対応について、迅速に的確に対応できるよう、より現実に近い形での訓練を繰り返し実施しています。また訓練の前に、最新情報などを共有するための「合同防災講演会」を実施し、地域住民一人ひとりが防災について勉強できる場づくりに努めています。

多くの方が興味を持って、訓練に参加していただけるよう訓練の最後に「〇×クイズ」をするなど、工夫を凝らしています。

この活動の効果として、地域におけるつながり、自治会の大切さをわかってもらえるようになったと感じています。

### 安否カード交付事業

私たちの自治会では、自治会員の方々へ「災害時安否カード」を交付し、日常的に持つようにしています。

災害発生時には、安否カードを元に、自治会内で地域住民の安否をいち早く確認できるようにしています。このカードにより、どの世帯に、どういった支援が必要かを判断できる仕組みとなっています。

また安否カードの裏面は、防災活動に参加した際にスタンプが押せるようになっており、防災活動への参加を促す取り組みの一つもかねています。



### 自治協働課からのコメント

「防災」という視点を切り口に、合同防災訓練や、安否カードの配布により、自分たちの身を自分たちで守る、また災害時の非難状況の確認等は、一番身近な自治会で行うための活動を展開されています。

大規模災害が発生した際、行政がすぐに現場に入れられない場合も想定されます。自分たちの地域は自分たちで守るという意識を共有し、日ごろから活動されているとともに、防災訓練等において、地域住民の方々が興味を示し、積極的に活動に参加できるよう、防災〇×クイズなど、訓練だけではない、おもしろい取り組みも取り入れておられるところは、大津市としても大変参考になる事業であると考えます。

# シニアクラブ、新生児お祝い金事業

## 南別所町自治会(長等学区)

**高齢者の居場所づくり、新生児のお祝い**  
**地域住民一人ひとりとのつながりを大切に、みんなの意見で広がる事業展開を目指して!!**

### シニアクラブ活動

私たちの自治会では、平成12年に発足したシニアクラブを中心に、高齢者の居場所づくりとして、多くの方が参加していただけるよう、活動メニューの豊富なサロン等の活動をしています。(ウォーキング、お食事会、カラオケなど)

一つ一つの活動の中でも、例えばサロンであれば、コーヒーを無料提供することで、参加者も増え、また話も弾み、参加者のストレス解消の場として、皆さんにご利用いただくことができたり、食事会では、お弁当だけでなく、うどんを手作りしたりと、活動の中身について、常にみんなが参加しやすいもの、楽しいものとなるよう、協議、工夫しながら進めています。

今後の課題としては、歩行が困難な方等に、どのように足を運んでいただくのか、検討をしていく必要があると感じています。

### 新生児お祝い金事業

平成28年度より、自治会加入世帯で新生児が誕生した家庭に対し、お祝いとして自治会より、3,000円のお祝い金を交付しています。

地域全体として、新生児の誕生をお祝いするという気持ちが伝わる事業であると感じています。今後は、小学校、中学校入学時のお祝い金についても検討していく予定であり、自治会として、子どもを大切にしていこうという機運の醸成を図っていけるよう活動を推進していきます。



### 自治協働課からのコメント

高齢者の居場所づくりという課題に対し、自治会という一番身近な組織が中心となり、さまざまなメニューを提供することで、多くの方が参加しやすい事業となっています。事業を継続して実施できるよう、内容の見直しや、変更など、常に地域住民の参加を促すよう話し合いをされているところは、自治会の事業を検討していくうえで大切な姿勢であると感じます。

新生児へのお祝い金事業では、自治会全体として、子どもの誕生を歓迎しているという気持ちが伝わり、受け取った世帯にとっても地域とのつながりを感じられるという点で、顔の見える関係づくりのきっかけとなるような大事な事業であると思います。

# 防災訓練と親睦行事の融合事業

## 皇子が丘三丁目自治会(長等学区)

災害時、地域をどう守っていくのか、他市の活動を参考に新しい取り組みへ!! 親睦行事にも工夫を凝らし、未加入者も合わせて参加者の増加へ

### 防災・防犯、安否確認訓練事業

私たちの自治会では、年1回防災訓練をしていますが、それとは別に「大丈夫の黄色いハンカチ」による安否確認訓練を年3回実施しています。

「大丈夫の黄色いハンカチ」は、災害時に、家にいる家族全員が無事である場合、玄関先や郵便受けなど、通りから見える場所に黄色い布を掲げて、「我が家は大丈夫だから、ほかの人を助けてあげてください」というメッセージを示すものです。

この取り組みは非自治会員の方にも声をかけ、多くの方に賛同していただき、安否確認訓練も会員、非会員区別なく参加いただいています。



### 親睦行事と防災訓練の融合

年5回実施している親睦行事（野外バーベキュー、夏祭り等）を防災訓練の一環と位置づけ、企画、参加確認、集合、準備を実施している。

このことで、訓練時だけでなく、平時の様々な活動の中でも、無意識に連絡、安否確認や防災に関する意識の向上につながっていると感じています。

また、地域全体の生活に関する問題については、自治会員、非自治会員の区別なく、情報を共有するようにしています。

### 自治協働課からのコメント

他市の活動を自分たちの自治会内の活動に取り入れたりと、自治会をよりよくしていこうという意識を持ち、アンテナをはって情報収集し、実際に実行する自治会の力強さを感じます。

また、これらの活動を含め、地域全体の生活に関わる問題に関しては、自治会員、非自治会員の区別なく情報共有することで、自然と交流も増え、自治会活動への理解も深まり、加入へとつながりつつあるということで、加入促進という課題解決へ特別な取り組みを始めるのではなく、今ある取り組みの中で、課題の解決へつながっていくという活動は大変参考になるものと感じました。

# お出かけ支援サービス “むつみ”

国分一丁目四区自治会(晴嵐学区)

**高齢者の外出をサポートできる支援体制づくり。まずは、隣近所のつきあいの中で助け合いにより問題解決へ**

## おでかけ支援サービス活動

私たちの自治会では、高齢化が進み、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯が増加傾向にあります。

また、地形的に高台に位置しているため、ほとんどの世帯が自家用車での移動となりますが、高齢により免許を返還するなど自家用車に乗ることができなくなり、家族の協力が得られない場合、買い物や外出が困難となる世帯が増えてきていました。

こうした中、外出困難な方を助けしようという隣近所で助け合いの取り組みが、自治会内で広がりを見せ、趣旨に賛同するメンバーを中心に、自家用車での送迎活動が始まりました。

おおむね70歳以上の方、車の運転が困難な方、家族の手助けが受けられない方など、条件を絞り対象者を限定するとともに、支援サポーターを募集するなど、地域の高齢者の困りごとを自分たちで解決できるような仕組みをつくりました。

この取り組みは、ただ、送迎だけを行うタクシーとは違い、住民同士のコミュニケーションの場の一つとなっており、地域住民同士がこの送迎を通じて仲良くなることで、送迎以外のときも声を掛け合える関係ができるなど、地域の活性化にもつながる取り組みであると感じています。



## 自治協働課からのコメント

隣近所での助け合いから始まった活動を、自治会の一つの活動としてシステム化するとともに、自分たちの困りごとは自分たちで解決するという気持ちで活動をどんどん広げておられます。

また、送迎という一つの目的だけでなく、送迎の車の中を一つの地域コミュニティの場としてとらえることで、高齢者の方の外出を安心して楽しいものになっています。

今後もいろいろな課題が発生することもあるかと思いますが、送迎の中での住民同士の会話が、日々のコミュニケーションを生み、地域の活性化につながる事業として、地域で大事に育ててほしいと思います。



# 災害時支援システム、花みずき会事業 ルネ大津自治会(平野学区)

**災害時、どの人が支援が必要なのか、その近くに支援できる人はいるのか、自治会の活動として、両者をマッチング!!**

## 災害時支援システム

私たちの自治会では、平成18年、高齢者及び身体の不自由な方で、支援を希望される方を対象に「災害時支援システム」を発足しました。

強度な地震が発生し、避難を要する時、サポーターを引き受けていただいた方が、対象者へ声かけによる安否確認と決められた場所への避難誘導を行います。

また平成22年より、自治会主催による防災訓練を実施しており、このシステムと実施訓練により、いざというときの対応が確立しつつあります。

この活動を通じて、日ごろからの環境づくり（同じフロア内での声かけや相手のことを気にかける姿勢）が大変重要であると感じています。

## 花みずき会事業

主に一人住まいの高齢者で、支援を希望される方を対象に、平成25年「花みずき会」を発足しました。

同じフロアの方に支援者（アシスタント）になっていただき、配達物の取り込みなど、日常的な見守りの中で、おかしいと思うことがあれば、声をかけるといった形で安否確認を行うとともに、毎月支援対象者への対応等、レポートに記録することで、みんなで情報を共有する体制づくりに取り組んでいます。



## 自治協働課からのコメント

支援が必要な方をどのように把握し、災害時等にどのように支援するのかということ、自治会単位で実施するという事は、行政が一律でやるよりきめ細やかな対応、支援ができるものと感じました。同じフロアの方に、サポーター、アシスタントといった支援者になっていただくことで、普段からのコミュニケーションも増え、よりお互いを理解したうえでの支援につながるものと感じました。

対象者への案内や支援者の委嘱等、他の地域においても、参考となることが多い事業であると感じました。

# カフェサロンふれあい事業

晴嵐台自治会(南郷学区)

**自治会有志によるサロン活動を、  
継続的な事業へ!!  
運営委員会を立ち上げ、みんなの  
ためのサロンへと活動を展開**

今後は、運営委員、参加者ともに高齢化が進んでいく中、カフェサロン（自治会館）までどのように足を運んでいただくか、運営を維持していくために、中高年や若年層の参加をどのように促していくのか、検討を深めていきたいと考えています。

## カフェサロンふれあい活動

自分たちの地域の中でも高齢化が進む中、一部の自治会員より気軽に立ち寄り、趣味や会話を楽しむ場所を作ろうという声が上がリ、平成27年10月に自治会有志によりカフェサロンを立ち上げました。

その後、継続してサロン活動をするため、自治会活動の一環として、ふれあい委員会を立ち上げ、カフェサロンを運営しています。ふれあい委員会を中心に、サロンをどのように運営していくのか、内容はどのようなものにするのか、同じ内容を続けていくのではなく、参加者に意見を聞き、柔軟にサロン活動に意見を反映するよう心がけています。



## 自治協働課からのコメント

最初は一部の自治会員の声から始まったサロン活動ですが、今後ますます高齢化が進むという将来の地域の姿、地域の課題を自治会として重く認識し、カフェサロンを自治会全体で取り組む活動へと昇華されました。

また、参加者をお客様としてではなく、運営委員の一人として、意見を聞いたり、参加者が講師となって折り紙教室を開いたり、自分たちのサロンは自分たちで考え、運営していこうという意識をもってみなさんが参加されているところが素晴らしいと思います。

運営委員会と参加者という立場を超えて、自治会員として、これからもアイデアを出しあい、サロン活動を楽しく進めていかれるものと思います。

# 高齢者健康状況巡回調査、学校通学時見守り事業 本宮東自治会(平野学区)

**民生委員や福祉委員と協力し、高齢者、小中学生の見守り活動を実施  
お互いのふれあいの場となり、地域が明るく元気に!!**

## 高齢者健康状況巡回調査

この制度は、高齢者を対象に、自治会長、自治会副会長、民生委員、福祉委員が、対象者の自宅を月に1回訪問し、健康状態などを確認する事業です。

確認した内容は、記録を残し、自治会で保存しており、必要があれば、関係機関に連絡をして、対応をしてもらうこともあります。今後も継続して実施できるようにするには、この事業の趣旨に賛同し、一緒に参加していただくことが必要であり、民生委員や福祉委員など、多くの方の協力が必要であると感じています。

## 学校通学時の見守り事業

私たちの自治会は小学校、中学校の通学経路となっております。

毎朝7時20分より1時間程度、8名ほどで子どもたちの通学を見守っています。

毎朝たっていると、子どもたちからも元気なあいさつの声を聞くことができ、双方ともこの見守りを一つのふれあいの場として、大事に感じています。



## 自治協働課からのコメント

高齢者、地域の小中学生の見守りを通じて、地域の安全・安心なまちづくりに努めておられます。

特に高齢者の健康状況巡回調査につきましては、見守りだけでなく、健康状況を把握し、記録を保存。また必要があれば、関係機関に連絡し、解決へと導くなど、各種団体と連携し、地域住民を守る仕組みを作られています。

今後は支援する方も高齢化が進んでいくということもあり、この大事な事業をどのように継続していくのかについて、検討を進めていただきたいと思います。

## 事例⑨

# 花街道花植え事業

西河原自治会(瀬田南学区)

## 地域に喜ばれる憩いの場づくりを自分たちの手で

自治会員に呼びかけをし、公演や道路の花壇に花を植え、環境整備に努めています。

花をみて、心穏やかに感じられるなど、地域住民の方に大変喜ばれている事業であり、今後もこの事業が継続できるよう、自分たちで地域の環境整備をしていこうという気持ちを広めていけたらと考えています。



## 事例⑩

# 自主防災活動による自治会加入促進事業 若葉台自治会(富士見学区)

## 防災活動をきっかけとした自治会加入の促進

平成25年、台風18号により土砂崩れが発生しましたが、発生直後からいち早く自主防災会を中心とした地域住民が応援に駆けつけ、復旧作業に努めました。

その行動を見た非自治会員の方が、自治会、自主防災会などの地域の防災活動の重要性、しつこくは日ごろの自治会活動の必要性を実感し、自治会へ加入していただくことができました。



## 自治協働課からのコメント

花植え事業については、自分たちで自治会をよりよい環境にしていこうという思いのもと取り組んでおられます。水やりなど、継続していくために検討する課題はありますが、みなさんの思いが一つにまとまっているため、一つずつ解決していけることと思います。

自主防災活動について、実際の災害時における自主防災会などの活動を目の当たりにされた非自治会員の方が、自治会の重要性に気付かれたという事例です。自治会の活動を理解していただく、自治会の重要性を感じてもらうためには、実際に見てもらう、参加してもらうということが一番大切であるということを感じました。



# 学区自治連合会 活動編



## 事例⑪

### 真野 学区

## ホームページ開設事業

**ホームページによる情報発信で、コミュニケーションの機会も増加。今までの活動により多くの参加者が!!**

自治会活動を広く周知することを目的にホームページを新設しました。

従来のみってもらうだけのホームページではなく、利用者間のコミュニケーションや外部への情報発信を促すためSNSを活用し、若年層や子育て世帯、非自治会員の方々へも、自治会活動を知ってもらう機会の提供に努めています。

今年4月開催の「ふれあい鯉のぼり祭り。真野」をホームページ上でPRしたところ、例年を大幅に上回る来場者があり、ホームページ開設の効果を実感することができました。



## 事例⑫

### 東部 ブロック

## 自治会活動に関する住民意識調査

**どうしたら自治会に加入してくれるのか・・・そもそもみんな自治会をどう思っている？みんなの思いを受け止めて効果的な事業展開へ**



様々な事業を実施する上で問題となる自治会加入率の低下について、まずは非自治会員も含め、住民がどのような意識をもっているのかを調査し、その結果を持って、効果的に自治会加入促進に取り組めるよう、今年度、意識調査から始めることとしました。

龍谷大学と連携し、学生にも協力してもらいながら意識調査の結果に基づいてそれぞれ協議し、自治会加入促進への取り組みにつなげていけるよう検討していきたいと考えています。

## 保護者や地域による子ども預かり事業

**地域の子どもは地域で守る活動が、子どもの居場所づくりや、保護者の就労支援にまでつながる事業へ!!**

この事業は、保護者や、地域のボランティアに預かり保育に関わってもらうことで、地域の子どもは地域で守り育てるという意識の醸成を図るとともに、幼稚園終了後の保護者の就労支援策でもあります。

保護者預かりでは、同じ年齢の子どもたちと一緒に過ごすことで、子どもにとっても地域に仲間ができ、また保護者にとっても、地域の子どものことを知る機会となっています。

また地域預かりでは、子どもは普段経験できない遊びを体験できるとともに、高齢者にとっても子どもとのふれあいの場となることで、参加して協力してみようという思いを感じてもらえる事業となっています。



## 冒険☆アソビバ事業

**企画から子どもも参加し、事業を展開!! 最近見かけることの少なくなった外で元気に駆けまわる子どもの姿が、地域のみんを元気に!!**



この事業は、最近、子どもたちが外で元気に走りまわっている姿を見かけないな・・・という気付きから、子どもたちが元気に外遊びができる場所を作ろうということで始まりました。

今年で2年目となりますが、この事業を始めて以降、普段より公園を走り回る子どもを見かけるようになり、うれしく感じているところです。

また小学校でのお泊り会では、各種団体だけでなく、参加している6年生も企画に加わるなど、企画から実施まで参加者も巻き込んで実施することで、地域住民が一つになって、またそれぞれが楽しみながらよりよいものを作り上げることの大切さを学んでもらえると感じています。

**今は少なくなった伝統行事を地域で復活。子どもにも体験してほしいという思いを持ち、みんなで守っていく大事な事業へ**

毎年1月に「夢・未来事業」として「もちつき大会」「どんど焼きまつり」を開催しています。

今日では、地域や家庭で実施されることが少なくなってきた伝統行事を子どもたちと一緒に地域で再現し、「夢・未来」へと繋げていく取り組みです。

限られた予算の中、食材等は地域の方々より寄付をいただいたり、運営スタッフとして多くの地域の方に手伝っていただきながら、地域全体で、この取り組みを守っていこうという思いで取り組んでいます。



**活動の周知、情報発信のため、新聞発行事業を開始。みんなが楽しみに待つ大事な情報発信のツールへ。**



自治会活動の周知、情報発信として、これまで回覧板等を利用してきたが、そもそも住民に読んでもらうことが難しいと感じたため、みんなが読みたくなる、手に取りたくなる形として、学区独自の新聞を発行しました。

結果として、日吉台新聞は多くの方に読んでもらうことができ、学区内の活動などがよくわかるようになったとの意見を多くいただきました。

また配布は自治会員のみですが、市民センターに設置することにより非自治会員の方にも手にとることができ、自治会のことを広く知っていただくツールの一つとなっています。

今後は、この事業を継続するため、作り方や写真撮影のコツなどを次の世代に伝えていくこと、また作成経費等が課題であると感じています。



## 自治会ごみ出し、資源ごみ回収事業

**大津市の推進している事業を自治会、自治連合会でも積極的に。みんなで取り組むごみ減量事業!!**

自治会内でのごみ出し、資源ごみについては、間違っ出す方も多く、その都度、未回収で残ったりと、自治会内での問題の一つとなっています。そこで、間違っ出す場合の事例を挙げて注意喚起をしたり、新たな取り組みとして生ごみの水切り運動のPRや、食品ロス削減運動、3010運動などにも自治会として積極的に取り組むようにしています

大津市として推進しているごみ減量運動に自治連合会としても、目標を定め、効果的に運動を進めることとしています。



## 自治会70歳以上名簿提出事業

**名簿作成という名の声かけ事業!! 名簿をみんなで管理することで災害時の支援体制の構築へ**



自治会員の支援体制をつくるにあたり、平成22年より70歳以上の方の名簿を作成し、自治会、自治連合会で保存しています。

この名簿を災害時の支援体制に活用するとともに、名簿を集める際など、高齢者への声かけのきっかけにもなり、喜んでいただいております。

名簿を作成することで、実際の災害時に対象者をどう支援していくのか、といった体制づくりにつながり、地域における防災意識の醸成につながるものとなっております。

私たちでつくろう  
大津のまち

お問い合わせ先